

この号は、理事・監事・評議員・保護者・職員のみなさんにお届けします。

からはし通信

2020. 6. 29

No. 9

社会福祉法人 唐橋福祉会

編集兼発行人 理事長 下村 勉

訃報

森田洋子先生が亡くなりました。

かねてより闘病中の（前）保育士の森田洋子先生（53歳）が6月26日午前8時5分、永眠されました。

森田先生は、開園間もない当園に2004年5月1日より本年4月30日まで、ちょうど16年間にわたって勤務し、ひたすら子どもたちに寄り添いながら、優しい思いを注いでこられました。7年前、病魔に侵されてからは、何度も入院・手術を繰り返しながら、保育への本格的な復帰をめざして懸命に闘病を続けてこられました。医師や家族の勧めで今春に退職されましたが、5月12日より再度の入院となり、この日、ついに力尽き、帰らぬ人となりました。

若くして無念の思いを残しながらこの世を去った保育士・森田先生の気持ちはいかばかりだったか、察するに余りあります。

ここに哀悼の思いを込め、謹んでお知らせをいたします。

告別式などは、今日の状況から、ごく親しい方々だけで営まれました。園からは代表が参列させていただき、全職員の哀悼の誠を捧げました。

△

森田先生には、「釈麗洋」（しゃくれいよう）という戒名がつけられました。美しい森田先生にふさわしい、新しいお名前です。

園舎のそばの金木犀（きんもくせい）の樹の中に、6月初め、ひよどりが巣を作りはじめました。やがて巣には4個の卵が産みつけられ、20日過ぎにはヒナが4羽誕生しました。ヒナたちは狭い巣の中でひしめきながら、えさを求めていました。

そして、森田先生が天上へ旅立たれた26日から27日にかけて、早くも、4羽とも巣立ちました。まだ、遠くへ飛ぶ力はないようで、親鳥とともに「あいあい」の園庭の樹木の間を飛び回っています。ピーピーと鳴くその声は、空から「あいあい」の子どもたちに贈られてくる森田先生の別れの声のようです。